




視 察 報 告 書

<p>調査・研究テーマ</p>	<p>不登校児童への多様な選択肢を考える</p>
<p>目 的</p>	<p>公立の廃校を利用したフリースクールが運営する不登校特例校について知る</p>
<p>内 容</p>	<p>日 時：2022年5月20日（金）10時～11時半 視察先：星槎名古屋中学校 愛知県名古屋市中村区名駅南4-6-38 説明者：星槎名古屋中学校 三村 紫十美 氏 星槎名古屋中学校 本田 司氏 参加者：小川 寿士、浜口 健司、佐伯 加寿美 報告書作成者：小川 寿士</p> 
<p>概 要</p>	<p>星槎名古屋中学校は、廃校になった名古屋市立六反小学校に、不登校対応の私立中学校誘致事業を誘致する事業で選定された学校法人国際学園が運営する一条校である。開校は平成24年4月。</p> <p>国際学園は「共生社会の実現」を目指し、「人を認める」、「仲間を作る」、「人を排除しない」という3つの約束を生徒たちにも守るように教えている。近年は特に発達に課題のある子どもたちも増えているが、自己主張を強くしていくことよりも社会から必要とされる、人から愛される人になってもらいたいとの気持ちで成長を促している。</p>

<p>概 要</p>	<p>管理教育の強い愛知県において不登校特例校ができたことは非常に大きい意味を持つ。横浜市で特例校となった実績が評価されたのではないかと。</p> <p>生徒数は中1が74名で3クラス。中2が96名で4クラス。中3は114名で4クラス。全校で284人。</p> <p>授業は午前3時間、午後2時間の授業。そして6時間目に25分間、自分のやりたい勉強をする時間を設けている。ゼミ授業も特徴の一つで、自分の極めたい分野を極めていく。他学年も一緒に同じ目的の子どもたちが集まることでコミュニケーションスキルもアップしていく。PCゲームや鉄道研究などがあり、専門家が来ることもある。</p> <p>学級担任制ではなく学年担任制を敷き、一対一で担任と合わない、うまくいかないということがないようにしている。中1と中2は定期テストもなく、単元ごとにテストをすることで子どもたちへの負担を減らしている。</p> <p>全教科でiPadを活用し「メタモジクラスルーム」というアプリを使い、個々の学習ニーズに応じ個別最適化を図っている。合理的配慮や支援のために取り入れた。Zoomを使った中継授業はコロナ以前の5、6年前から行っている。</p> <p>子ども同士の関わりとして「ピアチューター制度」も良い関係性を作り出している。各学年10人くらいおり、転入生や体験生のお世話をする。誰かの役に立ちたいという気持ちは自己肯定感が上がることにつながる。</p> <p>ステップアップルームという教室とは別の学習スペースも設け、養護やカウンセラー等の常駐するスペースで心を落ち着かせることもできる。</p> <p>学費は年間822,000円で、これにiPad代、制服代、指定品代がかかる。</p> <p>課題は、支援のあり方がそれぞれ異なり、照準をどこに合わせたらいいかが難しいこと。教員も不足している。入学を希望している方にお断りをするケースも増えてきて心苦しい。</p> <p>一方、保護者たちは、それまで通っている学校とは違う配慮を求めていることも多く、思いの強い方が多く協力的で大変助けられている。杉山大学の学生もボランティアとして関わってくれており、活動は単位認定される。</p>
------------	---

<p>概 要</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>体温を測ると同時に登校されたことが保護者に連絡される</p> <p>ステップアップルームを利用する際に使うカード</p>
<p>所 見</p>	<p>さいたま市の現状としては、不登校特例校の設置の検討は行われていない。しかし、同校に通学している生徒たちのように多くの子どもたちの学ぶ場として確実に成果を残している。さいたま市においては、閉校による施設が実在する見通しはないが、既存施設の利活用の可能性を見出しつつ、市立の不登校特例校設置及び私立中、高等学校の誘致についても検討していく必要性を認識した。今後、市議会における本会議、委員会での発言、また市長への政策要請等に盛り込んでいく。</p>
<p>基本政策</p>	<p>4. すべての子どもと若者に夢とチャンスを</p>